

2008年甲子園浜植生調査

兵庫県生物学会阪神支部

はじめに

2002年から行っている甲子園浜の植生調査は今年で7年目である(兵庫県生物学会阪神支部, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008)。今年も高校生に参加を呼びかけ, 2008年10月5日(日)午前10時から植物社会学的方法(Braun-Blanquet, 1964)で実施した。当日は雨天で生徒たちの健康のことも考え午前中のみで済ませた。トランセクトAだけ調査した。参加者は, 武田義昭, 宇和敏昭, 阪口正樹(以上, 会員), 沖野滉一(西宮東高校3年生), 北伸子, 宇都宮麻里, 菊美咲妃, 栗下香奈, 坂元美紀, 土岐亜由美(以上, 同2年生), 高松綾子(同1年生)であった。浜甲子園町会長の泉敏夫氏には町内の浜甲子園クラブ会館使用の便宜を図っていただいた。浜の近くにあるので昼食休憩に使用させていただいた。

10月9日(木)には, 宇和敏昭, 阪口正樹(以上, 会員), 大西夏江, 大幡矩子, 岸川由紀子, 岩崎博彌(以上, NPO法人海浜の自然環境を守る会)の6人でトランセクトBとCを調査した。

10月10日(金)には, 阪口正樹(会員), 泉敏夫(NPO法人海浜の自然環境を守る会, 浜甲子園町会長)の2人でトランセクトEを調査した。

2008年は甲子園浜に台風が来なかった。

調査方法

今回調査したトランセクトは, 2002年調査のものをそのまま使用している。トランセクトA, B, C, Eの4本を基準線から波打ち際に向かって1メートルごとに区切り, 1メートル四方の方形枠内をBraun-Blanquet(1964)の植物社会学的方法で記録した。散歩道側のコンクリート階段部分は調査しなかった。

調査結果

トランセクトA(昔からの砂浜, 表1)

調査区番号6から49まで植生を認めた。2007年に出現したヒメムカシヨモギ, マメグンバイナズナ, アメリカネナシカズラ, アレチマツヨイグサの4種類が2008年度には出現しなかった。2008年に出現した10種類は2007年にも出現していた。コウボウシバ, ハマヒルガオの海浜植物がみられる。

コウボウシバの分布は2007年は調査区番号48までであったのが, 2008年には49にまで広がり, また, 2007年にはなかった10と20の調査区番号にも広がった。調

査区番号10から49まですべてに出現した。

ハマヒルガオは, 調査区番号6~33のすべてに出現した。2007年は6~30のすべてに出現し, 分布が広がった。

ギョウギシバは, 調査区番号6~43の35方形区に分布した。3方形区は出現しなかった。2007年の分布も調査区番号6~43であったが, 5方形区には出現していなかった。分布が広がった。

オオフトバムグラは, 調査区番号6~38の22方形区に出現した。2007年には調査区番号6~27の10方形区に出現したので, 分布域が広がった。養浜部からの侵入, または2007年にすでに存在していたので, その植物からできた種子の散布が原因と考えられる。

メヒシバは, 調査区番号6, 7, 33に出現した。2007年の9方形区から3方形区に減少した。

ヘラオオバコ, オオアレチノギク, オオニシキソウは, 散歩道のそばに生育している。

トランセクトB(養浜部, トランセクトAから100m北西側にある 表2)

2008年では, 調査区番号3~60に植生を認めた。2007年の調査区番号63までの生育に比べて植生域が狭まった。波打ち際が63.5mなので, 浜が少しやせたのかも。

2008年はブタクサが出現したが, 2007年に出現したネズミムギ, オカヒジキ, オオイヌタデ, シロザ, クルマバザクロソウ, スベリヒユ, コニシキソウは見つからなかった。

コウボウシバの分布が2007年の調査区番号51~59から2008年は51~60へ拡大し, また被度も大きくなった。60.7mまで生えていた。

オオフトバムグラは, 調査区番号3~57のすべてに出現した。2007年は調査区番号4~54のすべてに出現したので浜側に3方形区分布を拡大した。トランセクトBの優占種である。調査区番号3は, コンクリートテラスのためごく小さいので, 2007年は調査区番号4から始めた。

メヒシバは, 15方形区に出現した。2007年は13方形区で海側の調査区番号60~63にも出現した。2008年はその調査区番号にはメヒシバはない。

クゲガヤツリは, 9方形区に出現した。2007年の1方形区から増加した。

コマツヨイグサは, 23方形区に出現した。2007年の

18方形区から増加した。

トランセクトC (養浜部, トランセクトBからさらに100m北西側にある 表3)

2007年は調査区番号2~63に植生を認めたが, 2008年は調査区番号2~64に植生を認めた。2007年は63まで分布したので浜側に向かって1方形区だけ植物が分布を広げた。2008年はスベリヒユ, ギシギシ, ヘラオオバコが出現したが, 2007年にあったギョウギシバ, ハマスゲ, ネズミムギ, メリケナムグラ, ミチヤナギ, オカヒジキ, エノコログサ, ランタナがみつからなかった。

オオフトバムグラは, 調査区番号2~59すべてに出現し, トランセクトCの優占種である。2007年の50方形区から2008年の58方形区に出現数が増加した。

メヒシバは, 調査区番号2~31の30方形区すべてに出現した。2007年は調査区番号2~45のうちの39方形区に出現していたので, 出現方形区数は減少した。

クダマツリは, 調査区番号9~30のうちの9方形区に出現した。2007年の1方形区から9方形区へと出現数が増加した。

コマツヨイグサは, 調査区番号11~59のうちの30方形区に出現した。2007年は調査区番号21~56のうちの22方形区に出現したので, 2008年は増加した。

コウボウシバは, 調査区番号29と50~64の16方形区に出現した。2007年は調査区番号27と48~63の17方形区に出現していたので減少した。

トランセクトE (養浜部, トランセクトCからさらに200m北西側にある 表4)

調査区番号2~53に植生を認めた。2007年は2~56に植生を認めたので, 植生域は減少した。2007年の54~56にはメヒシバ, ギョウギシバ, オオフトバムグラが出現していた。全体的にメヒシバとオオフトバムグラが優占する。2007年にあったネズミムギとギョウギシバがなくなり, アレチノギク, エノコログサ, イネ科芽生え, ミチヤナギが出現した。

メヒシバは, 調査区番号2~53の43方形区に出現した。2007年は調査区番号2~56の37方形区に出現し, 出現率が増加した。

オオフトバムグラは, 調査区番号3~50のうち33方形区に出現した。2007年は調査区番号8~54のうち12方形区であったのが急増した。

コウボウシバは, 調査区番号50, 51に出現した。2007年の調査区番号50だけであったのが, 分布を広げた。

オカヒジキは調査区番号52にだけ出現した。2007年の9方形区から激減した。

クダマツリは, 4方形区に出現した。2007年は3方

方形区に出現した。ほぼ同じ方形区に出現したので, 落ちた種がそのまま発芽したようだ。

コマツヨイグサは, 調査区番号46~51の6方形区にのみ出現した。2007年には調査区番号46~49の4方形区にのみ出現した。落ちた種がその場で発芽したのだろうか。

引用文献

- Braun-Blanquet, J. 1964. Pflanzensoziologie. 3Aufl. 865pp. Springer-Verlag, Wien.
- 兵庫県生物学会阪神支部. 2003. 2002年甲子園浜植生調査. 兵庫生物. 12(4): 234~237.
- 兵庫県生物学会阪神支部. 2004. 2003年甲子園浜植生調査. 兵庫生物. 12(5): 305~308.
- 兵庫県生物学会阪神支部. 2005. 2004年甲子園浜植生調査. 兵庫生物. 13(1): 79~84.
- 兵庫県生物学会阪神支部. 2006. 2005年甲子園浜植生調査. 兵庫生物. 13(2): 37~46.
- 兵庫県生物学会阪神支部. 2007. 2006年甲子園浜植生調査. 兵庫生物. 13(3): 175~178.
- 兵庫県生物学会阪神支部. 2008. 2007年甲子園浜植生調査. 兵庫生物. 13(4): 249~251.

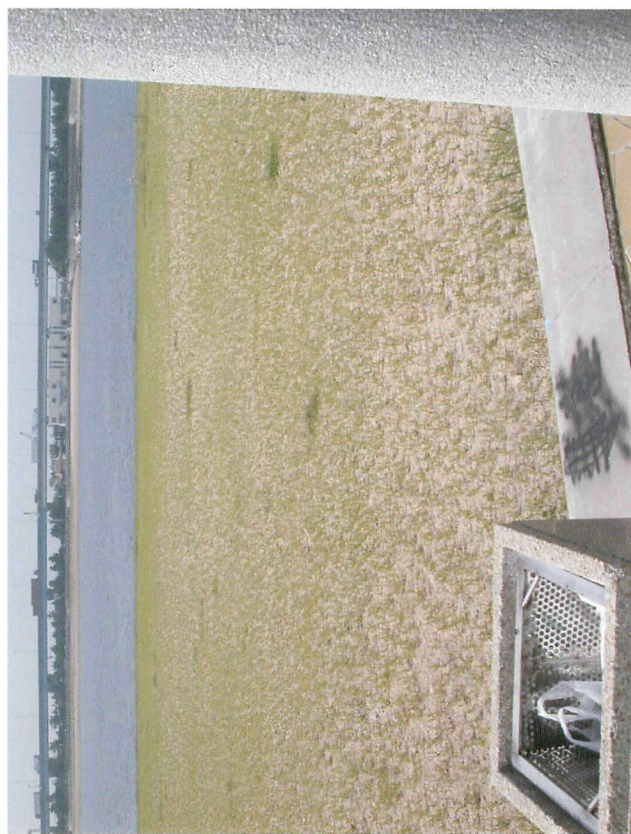
訂正: 「2007年甲子園浜植生調査」(『兵庫生物』13(4): 249-251. 2008.)に掲載したデータの一部を訂正します。

①p.251「表2 トランセクトB 甲子園浜」のオオイヌタデ, シロザ, アレチマツヨイグサ, ヘラオオバコ, クルマバザクロソウ, スベリヒユ, コニシキソウは出現していません。削除します。

②p.251「表3 トランセクトC 甲子園浜」のエノコログサ, ランタナは出現していません。削除します。



2008年9月12日トランセクトAを望む



2008年9月12日トランセクトBを望む



2008年9月12日トランセクトCを望む



2008年9月12日トランセクトEを望む

